

シリーズ 鳥取商業高等学校 「地域の産業経済界をリードし、活躍する人」の育成をめざして



大盛況の鳥商デパート

第22回鳥商デパート ～鳥商教育の集大成～

今年度で22回目を迎えた鳥商デパートは、県東部地区の冬の風物詩として地域に定着した一大イベントです。「デパート」と銘打つからには、「100-1=0*」をモットーにワンランク上の接客をめざしています。

今回の目玉は、何と言っても若者のファッションリーダーである「SHIBUYA 109 NET SHOP」との提携です。前年度2月末に生徒経営委員会が発足し、生徒社長のリーダーシップの下、毎年進化した「新しい鳥デバ」を企画し、全校生徒が準備していきます。

12月5日(土)6日(日)に開店した「鳥デバ」のテーマは「つながる～心で織りなす鳥商デパート～」。ホームページ、フェイスブック、ツイッター等による販売促進が奏功し、お客様満足度90点以上(ネットアンケート実施)、来客者数1万人、売上1200万円という目標をほぼ達成しました(結果はそれぞれ95点、9530人、1260万円)。これは、寒風の中で汚れたタイヤを洗浄する駐車場係、お客様に気持ちよく使っていただきたい一心で励むトイレ清掃係、等々、多くの裏方の貢献なくしては不可能でした。

鳥商デパートは、2月の成果発表会をもって1年間のPDCAサイクルを閉じます。3月には新経営委員会が、ワンランク上の第23回「鳥デバ」をスタートさせます。

※100-1=0…「1回の良くないサービスの印象が全体の印象をも悪くしてしまう」という意味

第2回鳥取県商業教育フォーラム ～日本一の商業教育をめざして～

全国トップレベルの商業高校に学ぶ生徒との交流を通して、①商業高校生としての「自覚と誇り」を持ち、②相互研鑽に励むことを目的として、昨年度から「鳥取県商業教育フォーラム」(第1部発表、第2部シンポジウム)を開催しています。

7月10日(金)に開催された第2回フォーラムでは、栃木県立宇都宮商業高校「めざせ 資格取得日本一!」、滋賀県立八幡商業高校「近江商人再生プロジェクト」、熊本県立熊本商業高校「世界で戦える傑出した人材づくり」、本校「地域・時代の要請に応える“Creative”商業教育」の発表の後で、「地域から期待される商業高校とは」というテーマでシンポジウムを行いました。

3時間半にわたるフォーラムに、生徒たちは大いに触発され、実学である商業教育のすばらしさを再確認したようです。



タイヤの泥を洗う駐車場係



「専門教育の重要性」を力説する
熊本商業高校



シンポジウム
「地域から期待される商業高校とは」